

「絆」裏周辺の生き物たち

生物調査報告書



とうかい環境村民会議 自然共生社会部会

表紙の写真

「絆」裏緑地 駆上線より		
東海村 総合福祉センター 「絆」	ナナホシ テントウ	
タコノアシ	コオイムシ	カザグルマ

ごあいさつ

私たち「とうかい環境村民会議」は、第2次東海村環境基本計画の理念‘自然豊かな環境を一人ひとりが力を合わせて守り育て ライフスタイルを見直し 持続可能な社会を創造する’の下、活動しています。この理念の実現のために、自然と共生できる社会を目指す「自然共生社会部会」、地球環境に配慮した活動をする「低炭素社会部会」、資源の循環と有効活用を進める「循環型社会部会」、健康で安心安全な生活を実現するための「生活環境部会」の4つの部会で活動し、それぞれがお互いに連携しながら計画を進めています。

今回、自然共生社会部会では、『「絆」裏周辺の生き物たち』と題して生物調査報告書をまとめることにしました。「絆」裏周辺のすばらしい自然環境を良い形態のまま後世に伝えたいという思いからです。この調査報告が、私たちのふるさと東海村のかけがえのない環境を次世代に引き継ぐための道しるべとなり、本村の環境が向上し続けることを願ってやみません。

とうかい環境村民会議 会長 富永利秋



図1 森への径



図2 収穫の秋

【1】いきさつ

「絆」裏は、自然共生社会部会が村内に定めた環境拠点の一つであり、平成 25 年度に策定された「東海村生物多様性地域戦略」においても、重要な場所として位置づけられています。この場所は、希少な動植物が生息・生育する谷津環境のあるビオトープネットワークの拠点として決められました。その為、今後美しい自然景観を残し、自然観察ゾーンのある村民いこいの場として活用できる可能性があります。

そこで私たちは、現状を把握するために春夏 2 回ずつ計 4 回の動植物調査を行い、今回その結果を考察等を加えてまとめ直し、報告書として作成しました。

【2】調査場所

総合福祉センター「絆」は、JR 東海駅の南東方向にあり、駅東大通りの五反田線と消防署前を通る駆上線の両方から入ることが出来ます。「絆」の裏手は細浦から続く谷津が伸びており、谷津の中央には農道と並列で用水路が流れています。以前は田圃として耕作されていましたが、今はほとんどが放置地となり、ヨシやガマに覆われるなど陸地化が進んでいます。



図 3 調査場所

【3】調査日

回	調査日	時間	天候	調査員数	
				みどりグループ	どうぶつグループ
1 回目	平成 25 年 5 月 6 日	9 時～11 時 30 分	晴	4 名	6 名
2 回目	平成 25 年 9 月 28 日	9 時～11 時 30 分	晴	3 名	5 名
3 回目	平成 26 年 5 月 17 日	9 時～11 時 30 分	晴	5 名	5 名
4 回目	平成 26 年 9 月 27 日	9 時～11 時 30 分	晴	4 名	4 名

【4】調査方法

調査は、みどりグループとどうぶつグループに分け、図3に示したように「絆」駐車場から五反田線方面に向かい、途中から谷津の農道を西に向かって進み、駆上線に出て「絆」駐車場へ戻る、「絆」裏を一周する形で実施しました。みどりグループはアドバイザー安嶋隆氏の下で、歩きながら目についた植物を観察、記録しました。生育環境を、A湿地・水辺／B道端・土手・畦／C林内・林縁の3つに類別しました。どうぶつグループはアドバイザー廣瀬誠氏の下で、道端、田、水路などにおいて網などで採取した昆虫や魚、動物を観察、記録しました。いずれのグループも、地図の入った記録紙に発見場所と名前を記入しました。図4に記録紙の一例を示します。

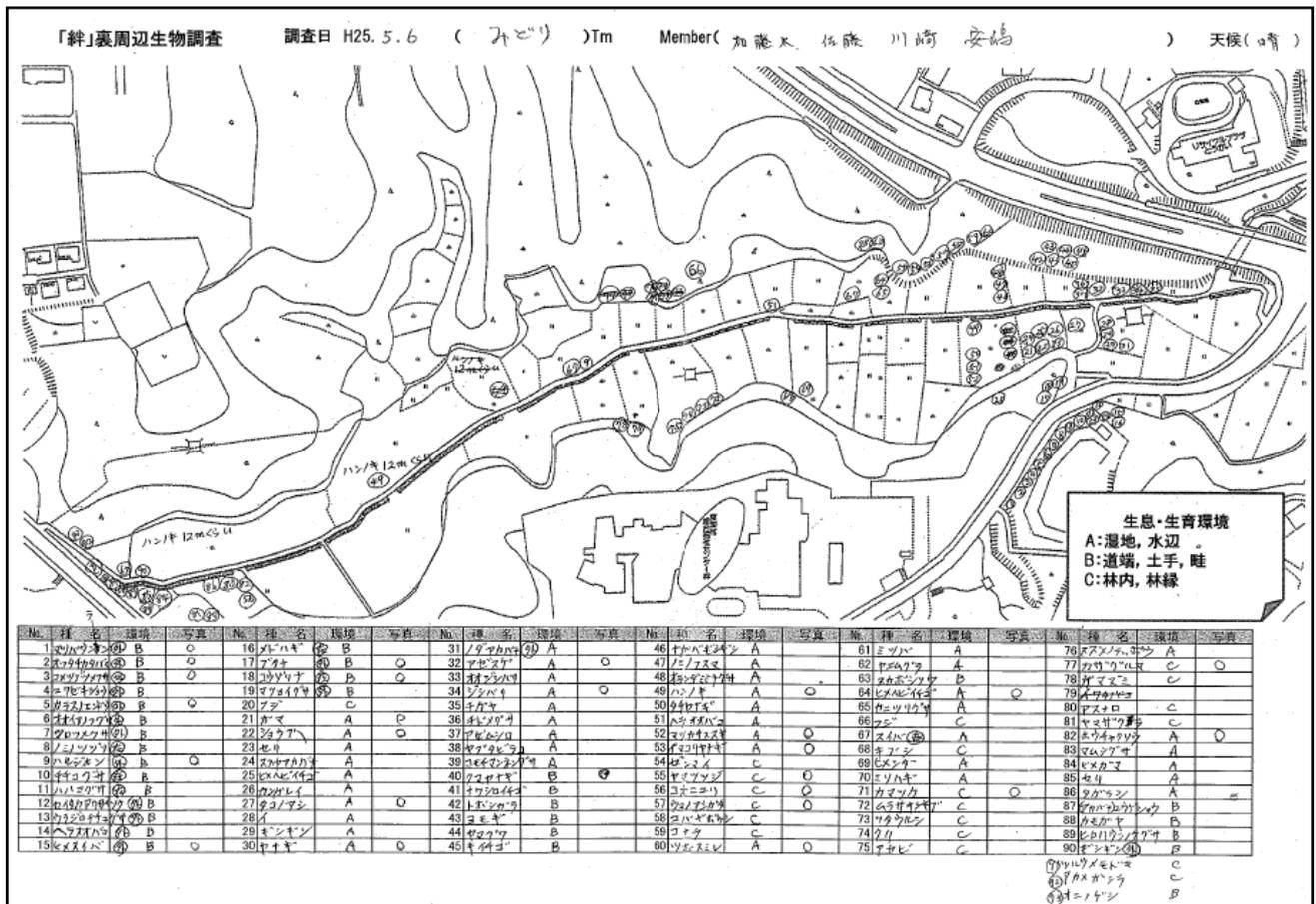


図4 調査記録紙の一例



図5 調査スナップ みどりグループ



図6 調査スナップ どうぶつグループ

◆アドバイザー紹介

○廣瀬 誠 氏

経歴：1933年水戸市生まれ。1956年茨城大学文理学部理学科卒業。

茨城県内小・中学校，県立教育研修センターに勤務し1994年に定年退職。
昆虫研究家・茨城虫の会代表，環境省自然公園指導員，茨城大学非常勤講師，
茨城県自然博物館研究助言者，茨城県環境アドバイザー，クリーンアップひぬま
ネットワーク会長，茨城県・水戸市・茨城町・東海村環境審議会委員など。

主な著書：「カメラルポ 虫と」（茨城虫の会・分担執筆），「私の蜻蛉譜」（河和田工房），
「トンボの引っこし」（さ・え・ら書房），「ふるさとの野帳」（東海村），
「滅びゆく日本の昆虫 50 種」（築地書館・分担執筆），
「羽化の刻 茨城のトンボ誌」（茨城虫の会），
「茨城の動物たち」（STEP・分担執筆），「茨城のトンボを追って」（緑の手帖社）

○安嶋 隆 氏

経歴：1952年常陸太田市生まれ。1977年金沢大学大学院理学研究科卒業後，里山の植物や
外来生物，水田雑草などを専門に生物地理学的な研究に没頭し，県内広く自然観察を指導。
茨城県立日立第二高等学校を2014年に定年退職。
茨城植生調査研究会代表。茨城生物の会理事，ひたち太田生物友の会会長，
環境省希少野生動植物保存推進員，環境省自然公園指導員，
茨城県環境アドバイザーなど。

主な著書：「日立の植物」（日立市・分担執筆），「常陸太田の自然 I II」（常陸太田市・分担執筆），
「金砂郷の自然」（金砂郷町・分担執筆），「東海村の自然誌」（東海村・分担執筆），
「日立の自然ハンドブック」（日立市・分担執筆），
「茨城における絶滅のおそれのある野生生物－植物編－」（茨城県・分担執筆）

【5】結果

◆植物◆

湿地・水辺に43種，土手・道端に121種，山林・林縁に51種確認しました。「茨城県版レッドデータブック2012年改訂版」に掲載されている絶滅危惧種，準絶滅危惧種を4種，「東海村レッドリスト」掲載候補種を9種，外来植物を43種，そのうち特定外来生物・要注意外来生物を16種確認出来ました。

次頁より，表として示します。（写真には4回の調査時以外で撮影したものを含みます。）

植物調査結果 1/6

No.	和名	湿地 水辺	土手 道端	山林 林縁	茨城県版 レッドデータ ブック 2012改訂版	東海村 レッドリスト	特定 要注意 外来生物	外来 植物
1	アオキ			○				
2	アカソ		○					
3	アカツメクサ		○					○
4	アカバナユウゲショウ		○					○
5	アカメガシワ			○				
6	アキノウナギツカミ	○						
7	アキノノゲシ		○					
8	アケビ			○				
9	アスナロ			○				
10	アゼスゲ	○	○			候補種		
11	アセビ			○				
12	アゼムシロ	○	○					
13	アブラガヤ	○	○					
14	アメリカセンダングサ		○				要注意	○
15	アレチウリ	○	○				特定	○
16	イ	○						
17	イタチハギ			○			要注意	○
18	イタドリ		○					
19	イヌコリヤナギ	○		○				
20	イヌザクラ			○				
21	イヌスギナ	○	○					
22	イヌビエ	○						
23	イボタノキ			○				
24	ウキヤガラ	○	○					
25	ウツギ			○				
26	ウマノアシガタ		○					
27	ウメモドキ	○		○				
28	ウラジロチチコグサ		○					○
29	エゴノキ			○				
30	エゾアブラガヤ	○	○					



No. 10 アゼスゲ



No. 15 アレチウリ



No. 19 イヌコリヤナギ



No. 33 オオオナモミ



No. 34 オオキンケイギク

植物調査結果 2/6

No.	和名	湿地 水辺	土手 道端	山林 林縁	茨城県版 レッドデータ ブック 2012改訂版	東海村 レッドリスト	特定 要注意 外来生物	外来 植物
31	エノコログサ		○					
32	オオイヌノフグリ		○					○
33	オオオナモミ		○				要注意	○
34	オオキンケイギク		○				特定	○
35	オオジシバリ		○					
36	オオバコ		○					
37	オギ	○	○					
38	オッタチカタバミ		○					○
39	オトギリソウ		○					
40	オニウシノケグサ		○				要注意	○
41	オニタビラコ		○					
42	オニドコロ		○					
43	オニノゲシ		○					○
44	オノエヤナギ	○		○				
45	オランダミミナグサ		○					○
46	カザグルマ			○	絶滅危惧Ⅱ類	候補種		
47	カサスゲ	○	○					
48	カゼクサ		○					
49	カナムグラ		○					
50	カニツリグサ		○					
51	ガマ	○						
52	ガマズミ			○				
53	カマツカ			○				
54	カモガヤ		○				要注意	○
55	カラスノエンドウ		○					
56	カワヤナギ	○		○				
57	カンガレイ		○					
58	キキョウソウ		○					○
59	キクイモ		○				要注意	○
60	ギシギシ		○					
61	キツネノボたん		○					



No. 40 オニウシノケグサ



No. 46 カザグルマ



No. 54 カモガヤ

植物調査結果 3/6

No.	和名	湿地 水辺	土手 道端	山林 林縁	茨城県版 レッドデータ ブック 2012改訂版	東海村 レッドリスト	特定 要注意 外来生物	外来 植物
62	キブシ			○				
63	キンエノコロ		○					
64	クズ		○					
65	クマシデ			○				
66	クマヤナギ			○				
67	クリ			○				
68	コアゼガヤツリ	○	○					
69	コウゾリナ		○					
70	コオニユリ			○	準絶滅危惧	候補種		
71	コゴメガヤツリ	○	○					
72	コスズメガヤ		○					○
73	コセンダングサ		○				要注意	○
74	コナスビ		○					
75	コナラ			○				
76	コバギボウシ	○	○					
77	コヒルガオ		○					
78	コメツブツメクサ		○					○
79	コモチマンネングサ		○					
80	サクラタデ	○	○					
81	ジシバリ		○					
82	ショウブ	○						
83	ジョウロウスゲ	○	○		準絶滅危惧	候補種		
84	シラカシ			○				
85	シロツメクサ		○					○
86	シロバナサクラタデ	○	○					
87	スイバ		○					
88	スギナ		○					
89	ススキ		○					
90	スズメノテッポウ	○	○					
91	スズメノヤリ		○					
92	ススヤアカバナ	○	○			候補種		



No. 59 キクイモ



No. 70 コオニユリ



No. 78 コメツブツメクサ



No. 83 ジョウロウスゲ

植物調査結果 4/6

No.	和名	湿地 水辺	土手 道端	山林 林縁	茨城県版 レッドデータ ブック 2012改訂版	東海村 レッドリスト	特定 要注意 外来生物	外来 植物
93	セイタカアワダチソウ		○				要注意	○
94	セイバンモロコシ		○					○
95	セイヨウタンポポ		○				要注意	○
96	セリ	○						
97	センブリ			○		候補種		
98	ゼンマイ			○				
99	ソメイヨシノ			○				
100	タガラシ	○						
101	タコノアシ	○			準絶滅危惧	候補種		
102	タチイヌノフグリ		○					○
103	タチツボスミレ		○					
104	タチヤナギ	○		○				
105	チガヤ		○					
106	チカラシバ		○					
107	チチコグサ		○					
108	チチコグサモドキ		○					○
109	チドメグサ		○					
110	ツタウルシ			○				
111	ツボスミレ		○					
112	ツボミオオバコ		○					○
113	ツメクサ		○					
114	ツユクサ		○					
115	ツリフネソウ		○					
116	ツルウメモドキ			○				
117	ツルマメ		○					
118	ドクダミ		○					
119	トボシガラ		○					
120	ナガバギシギシ		○					○
121	ナワシロイチゴ		○	○				
122	ニガナ		○					
123	ニセアカシア			○				○



No. 92 ススヤアカバナ



No. 93 セイタカアワダチソウ



No. 97 センブリ



No. 101 タコノアシ

植物調査結果 5/6

No.	和名	湿地 水辺	土手 道端	山林 林縁	茨城県版 レッドデータ ブック 2012改訂版	東海村 レッドリスト	特定 要注意 外来生物	外来 植物
124	ニワゼキショウ		○					○
125	ヌカキビ		○					
126	ヌカボシソウ		○					
127	ヌルデ			○				
128	ネコヤナギ	○		○				
129	ネジキ			○				
130	ネジバナ		○					
131	ネムノキ			○				
132	ノイバラ		○	○				
133	ノダアカバナ	○	○					○
134	ノブドウ			○				
135	ノミノツヅリ		○					
136	ノミノフスマ	○	○					
137	ハッカ		○					
138	ハハコグサ		○					
139	ハリイ	○						
140	ハルジオン		○				要注意	○
141	ハンノキ			○				
142	ヒメガマ	○						
143	ヒメコバンソウ		○					○
144	ヒメシダ		○					
145	ヒメジョオン		○				要注意	○
146	ヒメスイバ		○					○
147	ヒメヘビイチゴ	○	○					
148	フジ			○				
149	ブタクサ		○				要注意	○
150	ブタナ		○				要注意	○
151	ヘラオオバコ		○				要注意	○
152	ホウチャクソウ			○				
153	ホタルブクロ		○					
154	マツカサスキ	○	○					



No. 124 ニワゼキショウ



No. 140 ハルジオン



No. 141 ハンノキ



No. 146 ヒメスイバ



No. 148 フジ

植物調査結果 6/6

No.	和名	湿地 水辺	土手 道端	山林 林縁	茨城県版 レッドデータ ブック 2012改訂版	東海村 レッドリスト	特定 要注意 外来生物	外来 植物
155	マツバウンラン		○					○
156	マツヨイグサ		○					○
157	ママコノシリヌグイ	○						
158	マムシグサ			○				
159	マメゲンバイナズナ		○					○
160	マルバハギ		○	○				
161	ミゾソバ	○						
162	ミソハギ	○						
163	ミツバ	○						
164	ミツバアケビ		○	○				
165	ミノゴメ	○	○					
166	ムラサキシキブ			○				
167	メドハギ			○				
168	メヒシバ		○					
169	メマツヨイグサ		○				要注意	○
170	メリケンカルカヤ		○				要注意	○
171	モミジイチゴ			○				
172	ヤエムグラ		○					
173	ヤブタビラコ		○					
174	ヤブツルアズキ		○					
175	ヤブマメ		○					
176	ヤマグワ		○	○				
177	ヤマザクラ			○				
178	ヤマジノホトトギス		○			候補種		
179	ヤマツツジ			○		候補種		
180	ヤマノイモ		○	○				
181	ユウゲシヨウ		○					○
182	ヨシ	○						
183	ヨモギ		○					
	183種	43種	121種	51種	4種	9種	18種	43種



No. 150 ブタナ



No. 151 ヘラオオバコ



No. 159 マメゲンバイナズナ



No. 179 ヤマツツジ

◆動物

哺乳類 2 種，鳥類 16 種，両生類・爬虫類 6 種，魚類 4 種，節足動物のうちエビ・カニ 4 種，多足類 17 種，昆虫のうちトンボ 14 種，バッタ 18 種，甲虫など 13 種，チョウ・ガ 28 種，その他 44 種，さらにその他貝類などの動物を 9 種確認しました。「茨城県レッドリスト」に掲載されている魚類を 3 種，要注外来生物を 1 種確認しました。特に本村において貴重，特有な動物と思われるものについても示しました。

以下に表として示します。(写真には 4 回の調査時以外で撮影したものを含みます。)

動物調査結果 1/9

＜哺乳類＞

No.	和名	茨城県 レッドリスト	貴重	特有	要注意 外来生物
1	イタチ				
2	ノウサギ(糞)				
	2種				



哺乳類 No. 2 ノウサギ

＜鳥類＞

No.	和名	茨城県 レッドリスト	貴重	特有	要注意 外来生物
1	ウグイス				
2	カルガモ				
3	キジ				
4	キジバト				
5	コジュケイ				
6	シジュウカラ				
7	スズメ				
8	セグロセキレイ				
9	トビ				
10	ハシブトガラス				
11	ハシボソガラス				
12	ヒヨドリ				
13	ホオジロ				
14	メジロ				
15	モズ				
16	ヨシキリ				
	16種				



鳥類 No. 2 カルガモ



鳥類 No. 3 キジ



鳥類 No. 15 モズ

動物調査結果 2/9

《両生類・爬虫類》

No.	和名	茨城県 レッドリスト	貴重	特有	要注意 外来生物
1	アマガエル				
2	カナヘビ				
3	シマヘビ				
4	トウキョウダルマガエル				
5	ニホンアカガエル				
6	マムシ				
	6種				



両生類・爬虫類 No. 1
アマガエル



両生類・爬虫類 No. 3
シマヘビ

《魚類》

No.	和名	茨城県 レッドリスト	貴重	特有	要注意 外来生物
1	ドジョウ				
2	ホトケドジョウ	希少種	○		
3	ミナメダカ	希少種	○		
4	ヨシノボリ		○		
	4種	2種	3種		



両生類・爬虫類 No. 5
ニホンアカガエル

《節足動物 エビ・カニ》

No.	和名	茨城県 レッドリスト	貴重	特有	要注意 外来生物
1	アメリカザリガニ				要注意
2	スジエビ		○		
3	ニホンヨコエビ				
4	モクズガニ		○		
	4種		2種		1種



魚類 No. 2 ホトケドジョウ



魚類 No. 4 ヨシノボリ

  <p>節足動物エビ・カニ No. 2 スジエビ</p>	 <p>節足動物エビ・カニ No. 3 ニホンヨコエビ</p>
---	--



節足動物エビ・カニ No. 1
アメリカザリガニの巣孔

動物調査結果 3/9

《節足動物 多足》

No.	和名	茨城県 レッドリスト	貴重	特有	要注意 外来生物
1	アシナガグモ				
2	アズチグモ				
3	イオウイロハシリグモ				
4	イタチグモ				
5	オオシロカネグモ				
6	オカダンゴムシ				
7	コハナグモ				
8	ゴミグモ				
9	ササグモ				
10	サツマノミダマシ				
11	ジョロウグモ				
12	ナガコガネグモ				
13	ネコハエトリ				
14	ヒメグモ				
15	ムカデ				
16	ワカバグモ				
17	ワラジムシ				
	17種				



節足動物エビ・カニ No. 4
モクズガニ



節足動物多足 No. 4
イタチグモ



節足動物多足 No. 5
オオシロカネグモ



節足動物多足 No. 7
コハナグモ



節足動物多足 No. 11
ジョロウグモ

《昆虫 トンボ》

No.	和名	茨城県 レッドリスト	貴重	特有	要注意 外来生物
1	アオイトトンボ				
2	アキアカネ				
3	アジアイトトンボ				
4	オオアオイトトンボ				
5	オニヤンマ		○		
6	クロイトトンボ				
7	サラサヤンマ		○		
8	シオカラトンボ				
9	シオヤトンボ				
10	ナツアカネ				
11	ニホンカワトンボ			○	
12	ノシメトンボ				
13	ハグロトンボ				
14	ホソミオツネントンボ				
	14種		2種	1種	



昆虫トンボ No. 3
アジアイトトンボ



昆虫トンボ No. 5
オニヤンマ (ヤゴ)



昆虫トンボ No. 7
サラサヤンマ



昆虫トンボ No. 8
シオカラトンボ (ヤゴ)



昆虫トンボ No. 11
ニホンカワトンボ
(上♀・下♂)



昆虫トンボ No. 10
ナツアカネ

昆虫トンボ No. 14
ホソミオツネントンボ

《昆虫 バッタ》

No.	和名	茨城県 レッドリスト	貴重	特有	要注意 外来生物
1	アオマツムシ				
2	エンマコオロギ				
3	オカメコオロギ				
4	オンブバッタ				
5	カンタン				
6	キリギリス(幼虫)				
7	クビキリギス				
8	ササキリ				
9	ショウリョウバッタ				
10	セスジツユムシ				
11	ツチイナゴ				
12	ナキイナゴ				
13	ハタケノウマオイ				
14	ハネナガイナゴ				
15	ハネナガヒシバッタ				
16	ヒシバッタ				
17	ヒメギス(黒色幼虫)				
18	ヒメクサキリ				
	18種				



昆虫バッタ No. 1
アオマツムシ



昆虫バッタ No. 2
エンマコオロギ



昆虫バッタ No. 4
オンブバッタ



昆虫バッタ No. 9
ショウリョウバッタ



昆虫バッタ No. 12
ナキイナゴ



昆虫バッタ No. 11
ツチイナゴ



昆虫バッタ No. 17
ヒメギス (黒色幼虫)

《昆虫 甲虫など》

No.	和名	茨城県 レッドリスト	貴重	特有	要注意 外来生物
1	ウリハムシ				
2	カスミカメムシの一種				
3	クロウリハムシ				
4	コアオハナムグリ				
5	コガタルリハムシ				
6	コバネナガカメムシ				
7	ツマキヘリカメムシ				
8	ナナホシテントウ				
9	ナミテントウムシ(幼虫)				
10	ネクイハムシの一種				
11	ハムシの一種(クロウリハムシ近似種)				
12	マダラカスミカメムシ				
13	モモフトカミキリモドキ				
	13種				



昆虫甲虫など No. 6
コバネナガカメムシ



昆虫甲虫など No. 8
ナナホシテントウ
(上 成虫・下 さなぎ)



昆虫甲虫など No. 9
ナミテントウムシ (幼虫)



昆虫甲虫など No. 10
ネクイハムシの一種



昆虫甲虫など No. 12
マダラカスミカメムシ

動物調査結果 7/9

《昆虫 チョウ・ガ》

No.	和名	茨城県 レッドリスト	貴重	特有	要注意 外来生物
1	アカヒゲドクガ				
2	アゲハ				
3	イチモンジセセリ				
4	ウラギンシジミ				
5	ウラテンシロヒメシャク				
6	ウンモンクチバ				
7	オオチャバネセセリ				
8	キタキチョウ				
9	キタテハ				
10	クモガタヒョウモン				
11	クロアゲハ				
12	シャクガの一種				
13	シロオビノメイガ				
14	スジグロシロチョウ				
15	ツバメシジミ				
16	ツマキチョウ				
17	ツマグロヒョウモン				
18	トリバネガの一種				
19	ヒメウラナミジャノメ				
20	ヒメシャクガの一種				
21	ベニシジミ				
22	マイマイガ(幼虫)				
23	ミスジシロエダシャク				
24	モンキアゲハ				
25	モンキチョウ				
26	ヤマトシジミ				
27	ヨトウガの一種				
28	ルリシジミ				
	28種				



昆虫チョウ・ガ No. 2
アゲハ



昆虫チョウ・ガ No. 3
イチモンジセセリ



昆虫チョウ・ガ No. 9
キタテハ



昆虫チョウ・ガ No. 17
ツマグロヒョウモン
(上♀・下♂)



昆虫チョウ・ガ No. 11
クロアゲハ



昆虫チョウ・ガ No. 21
ベニシジミ

《昆虫 その他》

No.	和名	茨城県 レッドリスト	貴重	特有	要注意 外来生物
1	アオバハゴロモ				
2	アカムシユスリカ				
3	アシナガバエ				
4	アブラゼミ				
5	アワダチソウゲンバイ				
6	アワフキの一種(幼虫・種名不明)				
7	オオカマキリ				
8	オオヨコバイ				
9	オナシカワゲラ				
10	カボチャミバエ				
11	キイロホソガガンボ				
12	キリウジガガンボ				
13	クマバチ				
14	クリタマバチ(虫瘤内幼虫)				
15	クロナガアリ				
16	クロバエの一種				
17	コオイムシ	希少種	○		
18	コカマキリ				
19	コシボソガガンボ				
20	コハナバチの一種				
21	コミズムシ		○		
22	シオヤアブ				
23	ショウジョウバエの一種				
24	シロオビアワフキ				
25	セイタカアワダチソウツノナガアブラムシ				
26	セイヨウミツバチ				
27	ツマグロヨコバイ				
28	ナミハナアブ				
29	ニンギョウトビケラ				
30	ハグロケバエ				



昆虫その他 No. 7
オオカマキリ



昆虫その他 No. 9
オナシカワゲラ



昆虫その他 No. 11
キイロホソガガンボ



昆虫その他 No. 13
クマバチ



昆虫その他 No. 17
コオイムシ

動物調査結果 9/9

No.	和名	茨城県 レッドリスト	貴重	特有	要注意 外来生物
31	ハバチの一種(バラハバチ近似種)				
32	ハラビロカマキリ		○		
33	ヒグラシ				
34	ヒメアメンボ				
35	ヒメバチの一種(アゲハヒメバチ近似種)				
36	フタモンアシナガバチ				
37	ベッコウハゴロモ				
38	ベッコウバチ				
39	ホソヒラタアブ				
40	ミギワバエ				
41	ミズカマキリ				
42	モンカゲロウ				
43	ヤチバエ				
44	ヤマトシリアゲ				
	44種	1種	3種		

《その他》

No.	和名	茨城県 レッドリスト	貴重	特有	要注意 外来生物
1	イトミミズ				
2	ウシビル			○	
3	ウスカワマイマイ				
4	オカモノアラガイ				
5	カワニナ				
6	タニシ				
7	ヒタチマイマイ				
8	ミズミズの一種				
9	ミズムシ				
	9種			1種	



昆虫その他 No. 41
ミズカマキリ



その他 No. 2 ウシビル



その他 No. 5 カワニナ



その他 No. 6 タニシ



その他 No. 9 ミズムシ

【6】考察

平成 25 年と 26 年にかけて調査した結果、植物では 183 種、動物では 175 種の合計 358 種の生物が確認できました。

これらの中で、茨城県のレッドデータブックに記載されている植物では、絶滅危惧種（Ⅱ類）のカザグルマ、準絶滅危惧種のコオニユリ、タコノアシ、ジョウロウスゲが見つかりました。動物では、希少種とされているコオイムシ、ホトケドジョウ、ミナミメダカが確認され、貴重な生物の生息地であることが判りました。これらを守り後世に残すべく定期的に調査を行い保護していく必要があります。

一方、要注意外来生物であるセイタカアワダチソウの群生は随所に見られ、アメリカザリガニも毎回数多く捕獲されています。特に最近急速に蔓延し問題視されている特定外来生物のアレチウリ、オオキンケイギクが確認され、今後の推移を注意深く見ていく必要があります。

今回の調査は、時間の関係もあり道端等歩きやすい場所を中心に行ったものです。休耕田や山林内を詳しく調べていくことにより、より多くの動植物が確認できるものと思われます。また調査においては数量の確認までは行っていないため、今後保護保全を行うにあたっては、確認が必要となるでしょう。

【7】コメント

◇アドバイザー 廣瀬 誠 氏

調査地の動物相は、水生動物と耕作地周辺の草地性小動物とに二分できます。

特徴的な生物として、流水域に棲む魚類ヨシノボリ、ドジョウ、止水域に見られるミナミメダカ等と同様に流水性の昆虫類オニヤンマ、ニホンカワトンボ、注目度は高くないのですが、ウシビル、モクズガニも在来種として保全しておきたい動物といえるでしょう。

草地には、水田内外の草食性小型昆虫の個体数が多く、これらを餌として捕食するクモ類は種類・個体数共に豊富で、さらに追加種が期待できます。秋期、鳴く虫コオロギ類、イナゴ類、ウマオイ類の鳴き声を楽しめますが、街中に多いアオマツムシは少ないようです。

蝶類では訪花性のヒョウモンチョウ類、シジミチョウ類は目立ちますが、セセリチョウ類は少ないです。アゲハチョウ類ではモンキアゲハは偶産種でしょう。鳥類の視認種数の増加は期待できません。

全体的に那珂台地上の水系とその周辺に普遍的に生息している動物種の半数以上が確認できた得難い生態系と評価しています。

◇アドバイザー 安嶋 隆 氏

絆地区は里山の景観が広い面積で残っている場所で、水田とそれを取り囲む雑木林、斜面などには多数の植物が生育しています。特に水田に関しては耕作中の水田と放棄後の植生の変化を同時に観察できる場所です。

斜面には東海村を特徴づけるカザグルマが生息していますが、生息環境の変化により個体数が減少しています。尚、付近にはオニシバリ、サワシログク、モウセンゴケなどの生育記録がありますが、今回の調査では確認できませんでした。周囲の環境変化とともに減少傾向にあるので今後の継続観察が必要と思われます。放棄後の経過年数が異なる水田が各所に見られ、生育植物の違いを記録することは貴重なデータになると思われます。特に、ススヤアカバナ、タコノアシ、ジョウロウスゲ、ヤナギ類の生育状況に注意したいです。

また周囲の雑木林の調査も実施できればこの地区全体の重要性が明らかになっていくのではないかと

と思われます。

◇調査者

「絆」を利用する方は多いでしょうが、その裏手に昔なつかしい里山の風景が開けていることをご存知でしょうか？雑木林に囲まれ、休耕田や耕作放棄地の中央を小さな水路が流れ、水路沿いの小道を歩くと美しい鳥の音が聞こえます。

ここにどんな動植物がいるのでしょうか？わくわくした気持ちで歩くと、なんと外来植物の多いこと！アメリカセンダングサ、アレチウリ、イタチハギ、オオキンケイギク、カモガヤなど、ご指導していただいた安嶋先生に教わり、外来植物の種類や個体数の多さに驚きました。

でも、外来植物だけではありません。カザグルマ、コオニユリ、ジョウロウスゲ、タコノアシなど、準絶滅危惧種である希少な植物を見つけることができました。そのなかでも「カザグルマ」は園芸種のクレマチスの原型になったもので、東海村でも自生している場所は少なく、“ここにあったのか！”という感動がありました。また、花序の枝に多数の花が並ぶ様子が吸盤の付いた蛸の足のように見える「タコノアシ」など、植物の名前の由来のおもしろさも知ることができました。

私達の調査は4回でしたが、新たに、絆裏一帯の生態系の重要性を感じています。未来に残さなくてはならない場所と信じ、この調査が未来の絆裏一帯の存続、あるいは自然公園化への小さなステップになることを祈っています。

【8】編集後記

かつての「絆」裏では、初夏には早苗が風になびき、秋には赤とんぼが飛び交う、谷津田の風景が見られました。それがいつのころからか休耕田が増え始め、ヨシやガマが生い茂り、最近では灌木も目立って大きくなってきており、これらの変化は植生への影響も少なからずあるものと推定されます。一方で、この地は早くから自然公園等の計画が囁かれ、近隣では宅地開発も進んでいるため、生物多様性の面からも、一刻も早い現状調査の必要性が求められておりました。ここに無事調査が終了し、基礎調査報告書としてまとめる事が出来ましたこと、嬉しく思います。

ご指導して下さいました両アドバイザー及び部会員の皆様に感謝し、本報告書が多くの村民の方々に読んでいただき、今後の参考となることを願っています。

調査者名： 安嶋 隆 井坂正一 加藤木賢 神永悦子 川崎志保
黒澤正司 小泉博美 齋藤由美子 酒井宏典 境 洋子
佐藤留三郎 白石幸洋 須田秋夫 高橋 巽 富永利秋
廣瀬 誠 松尾 尚 茂又速史（五十音順）

発行： とうかい環境村民会議自然共生社会部会

編集： とうかい環境村民会議自然共生社会部会編集員会

発行日： 平成27年7月

問合せ： 東海村村民生活部環境政策課環境計画・緑化推進担当